

第5回内川未来戦略会議 振り返り(2024.11.29)

内川未来戦略会議の命題: 今後、内川がどのようなエリアを目指すべきか、内川が持つ価値を共通認識できるようにしていく

第5回テーマ:「移住や店舗開業における課題や可能性」

委員による主な提言

内川への移住

- 人口減少でまちが「密」から「疎」になったから、空き家に住める、色々なものが丁寧に見える
- 一つひとつが風景で、その営みの中にいることが貢献だと思っている

移住で見えてきた課題

- 都会に出るより地方に戻る方がハードルが高く、関係人口的な関わりは移住のきっかけになる
- ハレの日の発信が多く、日常生活の情報発信が少ない(今は増えてきた)
- 移住したときの異物反応は必ずあるが、だんだん受け入れられるようになる

起業で見えてきた課題

- 行政に求めるのは精神的な応援。一番苦しい時に支援できないなら、起業時の資金は不要

起業や事業で外の人を巻き込むには

- 外の力を活かして、内に秘めたものを最大限に発揮する → イノベーションが起きる
 - ↳ 共感・身を委ねる関係が最大の力を発揮する
 - ↳ お互いに足りないところを補う関係性をつくる
 - 今、起きていることは「過去」の産物。「過去」では「明るい未来」はつukれない
 - ↳ 必要なもの、ことは自分から獲りにいく → スピード感が大事
 - ↳ 足りないところは埋めにくい → 信頼関係が必要
 - いかに美しく見せるか、デザインを入れるか → 人は人で磨かれ、街は住む人を映す
- #### 巻き込みをさらに加速させるために
- 民間・行政 プレイヤー同士の価値観(志座)を高める、オープンな場づくりが必要

提言を踏まえた、委員による意見交換

意見交換の概要

プレイヤーの活動を 発信、支援していくべき

- ・熱量とスピード感を持って活動している人がいることこそ奇跡であり、市として発信していくべき
- ・活動する人たちを行政は徹底的に支援すべき

オープンでつながる場が必要

- ・自分たちのまちをなんとかしたいという住民はたくさんいるため、話を聞ける場、混ざり合う場が必要
- ・限られた関係性にならないようオープンなマインドであり続けることも必要(海外からの受け入れも)

行政は万能ではない

- ・行政では解決できない課題、障壁を取り除く協議会や民間との連携が必要
- ・行政だからできる支援や枠組み、条例の制定などを本気で考えるべき

いかに普段の姿を 良くしていくか

- ・行政も民間も魅力の10を10で伝えきれていない
- ・内川の間口が狭い住宅は子育て初期で活用して10年住んで次に譲る、というスタイルもあるはず